挑曉をついて進撃する象部隊(震)-電送

いふ言葉で、文化人は殿レく批判

と観覚を掘へて強軍し、 間で負い音は文化人であり、ペン

彼等はいまでれを含しとげつくめる如善ものを強へて眩眩させ、甘るのは誰か。勿識文化人であり、

法開かる被等にたい 観音域は しめ

せて、その間に侵跡の縁号に出し、空流で、<equation-block>数響、減難を、含らに思しなりして地方に流てのものを分散、れを分散せしめることは不事態に

内地に於いては、都會のとどま

らゆる物質が不足し人的資源またば足りると思ふ。

この理想を質現せしめる爲には、地方分散の質現ともなるし、

じると思ふ。しかし、今日の如くる。関から五周郡医の激星都市を汚て

化人に認された原発ある低強だっ

された。これは理論に確する熟意

鍼後の士無似郷の傾命に便身する

をむけ、そのことに の盟主として疑定な

い諸民族をして、武

戰時に文化人の負ふもの

線に於ける止死、頻哲を似として、るが、原頭を測反と仰言、職策に

日が深た。 脳も変遷は交渉事職の た。 徹底時に吹きつけてすへは相 得るものは、文化時代化人にも、風ちよって汚名を含く こかきでの戦争は破壊を意味し に心の歌から造出さ

密境から大馬亞威

全大会な

発は自族を

接げるより

現ないので

工作の上に

押し

で見た曖昧なる現實に立ち向ひ。とくに一應その目的は達成したのられた完全にして

こその中心に置かれ、また治療者(領地における軍政下にあって、建一於いて、もし徳等

と同時に建設がはじめられる。占ければならない。平川時るの日に

う。失張り、低に於いて宗真の母者でなければ。理解し繋いて、ゆう

るのであるといっても、たれに、

に強へるには難へる菌の数十倍が

日本人と同じ戦略と信義を言うと、金数自体をおのれが断へてあるべ、受けぬとも匿らば繁殖した無数のて、都會にあるものは分数出来なしんば、そのうちの一部落が理得るばかりでなく、

何帰如何なる時に激復の空襲をす仕事であって、この影響なくし

る。これは種を聴く前の、脛を翻案地を作りあげることが必要であ

がその内容を形置り面目を吸めるとしてあるならば、彼等は相違らもし、曖厥に立つきによって地方に過去の生活に激し、鄙害に数々

であらうとは期して待ち得る。

が、當面の問題としては、中央築地方の面長として再起奉公しえや

極的なるものゝ地方分散に適する うであるが、これらの人々が指導 意図を持つことが出來すして能ら

文化人が、このやうな旺んなる

酸に肉素して行った思ひ出の風味

ングル、道なき道に島垣勇士が砂

にはその一歩々々を印すが如く新

ゆう きであるから、文化人は今日の必 下にあつて、諸寛命、墨梭、工場

ある否は観後の適りにおい

四米に、前班、曹証乃至は巍峨、田野を見限させ、進んで建設に聞るとしたら、後巻の信頼感は我等

蟄に営ると共にその地域にゐる原。皆て米英の映へ立ものに若ってゐ

選等に、
最いて
その中間的役
カナるまでに
導いてゆくのは、
文
の
上から
芸
るに相響ない。
米英
は

喰いしばって堪へてゐたやうな文

い風に吹き磨されながら、糊をテリのたぐびではなかったのだ。 感域であつた。しかし、3の含文 正に改争と織ら並なる煮白きイン (版內市

支へであるにすぎないので発療

時半カーチスピー四〇悪八儆

が、これを見た他の敵機は食 忽ら黒煙を吹きつく直走した

割もなかつたが、無防備の安

たものでわが方には何い

の不甲斐なさを襲詰されてゐ

最近系容軍は軍魔側よりそ

安南人に不法機銃掃射

惡虐、廣州灣來襲の米空軍

見られるが、廣州数一葉の一 つたもので、またフランス側

般住民は生れて初めての爆撃 への腹極せをも含めだものと たので送に平和郷東州戦を撃 四東七日同盟】九日午前十

昼戻にも市内住宅區域に所態

は主義館掃船を浴びせ、多数

わが防寒硬火は通らになる

歌は孫更に租借地内の住宅医 売として東北方に**選走した**、

> 話を與くたことは米空軍の非 南人を殺傷し、華人家屋に街

人道ぶりを明かに示してゐる

るも、民衆食は悪パンと帰と小

举尺

に攪亂したのである 傷の中に描言とまれ食福の落

シャンステートの数主力を掃

【ハノイ特電十日發】蘇

關係深まる

佛印間の関係は最近郡次級意化す

トイツ広勝も続けてあるものく

心度級に大抵害を甦へてこれでといっての

い國で、小婆は六十数パーセント ダリーも、もともと食棚の足りな 質糊的には相當苦勢してをひ、

・三月卅一日※軍値窓隊はナン

東方地既において約一個中除一る質韻を並、ニューデーリと來聞、非武嶷地標の改定の意間さへ一部

航空部隊の慰難に奔命に避れてあ 派訟反艦・戦災は虚夜を分たぬ日本 戦闘機を使用 英印軍、夜間

り、更にこれが進展して兩國國境

も見られるが、平穏そのものであ るに至りドクー總督の施政演説に

域を狙び、人心機能を企図し

いてのこのである。

一五年に一河圏県防に楽るのであつ

いふとは常然記るべき自然現象でともなれば、その間に米の不作と 一覧に大東県版学と所習芸別版

質のとこる、

つてゐるといることはまことに る筈であったが、今の程度に止っ すれば、もつと食糧の困難を飲む

らで、日の意味ねばならぬことな

智利な立場にあるかを置するこめ

の過ぎ、九日早朝チツタゴン南方の反衝蜒塩飛行場を激駆した国十日後表した

殘敵を覆滅

泰軍、掃蕩戦に活躍

基地において日本軍に對し作職し

ボーフアイター』が印度の各字型

空軍の後間戦闘機『プリストル・ よれば反猫軸型司令部は十日夜米 世界の戦を國々に厳べて外间

そらく欧洲全職が企業が

ノフリカ、印度、南茶に依定し

すれば意識が不足するのは常然の ってゐる、殿筆が擬大され長期に なることがまこか。

一路製造と掘る一年十万月二ケ年を

量は八ケ月で渡り、日これはどうしてであら

5の經確大規模の版 | 日語、日催陳記復に食器問題は | 時にぶつかり、

師も拠間が強かつ。の不足など戦争は食物不足

策と氣機なくして長期間は成り立

離を促した。以下はこの網裏である

第七陸戦航空歩端飛売が長山県四郎大佐にその「瀬倉を書いてかよう、氏佐谷園の経郷事朝を転送して、その腹壁伝を察決に源識すべきである。今や食ふか食氏がるか、狭蔵に次ぐ決議の質兵申においてその 針類を動門にすべきか――祭決に源職すべきである。今や食ふか食氏がるか、狭蔵に次ぐ決議の質兵申においてその 針類を動門にすべきか――祭の意味の連覇したところであり、職る関長として、あらためて鎔議し、関盟一人一人がこの後環間に

て身を以つて間接してゐる、第一次歐洲大戰における。ドイツの如き、食糧問題

【東京関係】「関係と経歴」この問題

眼を注げ、不易、海の幸

明かとし、ひるがヘフて『わが日本な意識不足の園とは「概じてない、実際不治未園である」と関係して園民一段の法

食糧溢る」。日本

三点から最低級の生活と即数され **國士の杉大さは、生配地と討ち地** との途跡を來たし、これに對しゴ ているので、語うじて支へてある

國、個軸國たると数國たるとを問 少の差こであれ等しく苦悩すると はアメリカにも食糧に大きは著一 かく観ずれば、世界各國、形ふ づれら私一個の私見である

湯の誤反による職語食品の生産的

つて、而もまだ十分なる飲俗を依 ころである。これに対比してわが一年たる今年は歌作を楽成都意する が異常な機作なりしが故じその翌 先づぶについてはどうか、気は昨年米 ものである、六千六百七十餘萬石

むてゐる、朋と今ごろ刻不然の問「疳耐が、肥烈を興ヘずして、これ「とは肥烈を難へよ、第三とは耻弱」と髪影像し、騰騰請願越なとによって、前も志え十分なる敵衛をর、前年居と地し、廿一パーセントの「には必ず先づ土地を難へよ、第二 日・二百廿日の鄙魔雨あらば、まった。

とかく重額の地面といへは第一

か、この膨脹を述べてみよう、い

世界中で日本くらの食が間に最も わが國の食糧問題 らねばならぬのである のゲリラ作威による選絡妨害は本

依存することにより絶大にして安 ものがある、それは水面海の華に一動をふりあげて耕作に従ひ肥料を 悪ります國たるを見ばしめらるる 定不動の食糧資源を四面環海に見

一気の飲力のいつた。正であって、 まだく大きな切り礼が残ってあ

指導に吃吃飯助し、圏村諸君は鍛 足を來えさず、しかもその生態は 施し、あらゆる施策を跡ずるも

を興へよ、更に臨民を題村に復職一りあらゆる努力は水池に晒するの んぱその地産は別 一位版を多分に包蔵してゐる かくの如く、人力をもつて如何

の幸の真中に埋まり、また平楽最一張栽草を以てする方が遙かに野茶

も國民の嗜好に投ずる魚あり、海

的効果を駆け得るものである。

る貨物の減少に思び強る時、大概一報復は米軍が自ら帰った

なくなってある、しかして 近は飛痕で平地なところ

\$P\$白記。更終日記 久松潜一·佐藤春夫監修

雅川

雅川 混譯

舞 日書間·皇

の生産は俗然波粉草級の野菜に移

だ、皇軍はこの変穴を略

【典古本日譯代現】 資發日十二

も酸酸にうたひあげたる軸島。威廉なる古人の人間即勢立家め日本解液の精聯ともいふべき、平安女性の内間生活を握え、藺

蕉

集 岩田九郎譯

み越えて前進したのだ

東海岸より

の前に、甘受屈從を除骸なくせし ら問題はないのであるが、現下の 入の容易にして可能なる場合は何 で以て区民主食を充つることの危

度に貧風不妙末國である、昭和十

的に食物不足関では跳じてない。

一き秋に於て、恒常不易の食精査劇 如きあくまで、

だけの館牧をみたことは、辿力の 和紀を整照するのである。これが せしめよ、と強々の欲求があり、 これを具現せず すべくもないと驚へられるのであ

能が記述されるが知さば食用して

年度更に酸烈の度を加ふべく、従一るが、海に至っては、絶對に土地 ってあくまで自國内自給の策に依一を必要とせず、肥料を要せず、ま

一朝天候に呉盛めつて雨十日盛 に依存するの必要は既に切びなる

不變の食糧確保

幸ひにして日本は四面環海、海

第力を撃すならは大概に代ふるに 『食羅不始表閥』である。同じ土地、同じ肥料、同じ 本は『食派の不足 陵』で

菜の中依然大根四十二%を占めて

有し、世界に援も食桶に恵まれた 識ずれば日本は世界いづれもの國 施すべき策を施し改すべき臨政を

て山田と強入した水中は二年の周 で田かべく敷目の態度要示郷をしたるる。 で田かべく敷目の態度要示郷としてある。この 関西な要素を減ましてある。この

道路の左側一帯には我が

て山中に強入した水牛は

選行東老年に就いて

岩崎良三澤

語の一面田袋市沿泉 発展第京四正一面

「カテイリーナの関防」

道路である、殿岡宮時か パタアン抗酸路は西海

こそ、この秋である。 配給、漁具の配給循版、更に壓干 せぬこの海の幸を活用配捌すべき。
草あり、採つても採つても取り盛 魚の製造、魚粉末の生産配給など これが方策としては强力なる水

力を致さればならぬ、全國的に野

の施策に比し容易なることばかり きである、何れも地上陸撃生蔵、これ等に强力なる軍點を指向すべ これに加 ふる に野菜の増産に

思へば、日本は實に思まれたる碑|與る安定恒常である、整局が増産 如何に敵じ如何に具現すべきか、 然らば、その貧組不足の勢策を一的政務はいま過剰にして勢力の不

時に 北に冷 雲あり、また二百十 問題である

丘のためといふ名目ではあるが然 ハーアン氏は 察在留側取人の

測開保安部が要限されるに至って る物質の輸出など物質変換の細一

「リスポン十日同盟」
動級報道に

被され攻略開始既まで退却を除後 は脳臓災集中砲火により蔵車が殲

しなく戦落し無ざまの姿を

で置て

長距離通信教授

自宅修學最短期間資格獲得へ帝國 綜合 學院最 新式講

への確實指導

月四十八〇日本

+

=

一卷館本

米英軍退却 北阿戰線戰況

ジエペル・エル・パブ周辺地區で

した。時に他へかれてある

あつた

監夫春藤佐 修二浩野宇

明治文學作家論上 ◎近代日本文學作家論 (全六冊の中)

月中旬發賣 為時期於一門治學

館 4 *

英陣地、船舶を粉碎

荒鷲原南地區を連續猛襲

の再開といふものでなく日常必然 これは側印、梁國間における変易

、リスポン十日同盟」ニューデリー
夾竜=印度派遣反降・極望司令部の継要によれば、日本航空部隊は、九日職爆運合をもつてペンガル州。

東南のナフ河上における。英國の船舶を破壊、そらにベンガル州里南地區における英雄戦地に破壊を加へたといなれる。英雄はまたマユ学語ラデドン地區において日本軍の包閣領域内に避難魔域を待っばかりとなってゐる 部隊の途域に領望となってゐる背景だが、J版領域であったが、大阪域はまたマユジ司令部の襲撃とれるは英瑩軍部場際は同方面の略級によって二級を環火したといなれる

に敵魔されるに至ってをり、これ

、イスタンプール十日同盟」ニューデリー來電『印度』派遣反應鹹野司令部は日本航空部隊が八日に

を膨取性から輸入すた勢取性の欲一品の交換の無度を目標としてゐる」と動し楽雕として故國內不足物資一品の交換の無度を目標としてゐる」

想出の戦場に平 バタアン半島昭ちて一周年 建設に大童の住民達

を遭って戦った墨虹勇士の歓戦の一般とジャングルの中に米比珽六萬 た一周年記念日に當るが記者は魯アン半島の米比取が全面的降伏し れる建設振りを砂察したと共に服務の跡に難々しく額けら 跡を訪ね、パタアン攻略版を燃ぶ 撤って燃火と輸く問民の姿を新し、シ平野に新比問建設の重要役割を レス、サマツトなどの暖盛が観査。アン半島に入る、ナチブ、マリベ道は頭のやうな山岳重叠たるバタ い感激をもつて脳めてあるうちに 瀬洲を思はせる一面の中部ルソ一共にパタアンから吹飛んでしまっ

くなかつたが、今は全

してジリート所りつけてあるがいまは密膜とした職場に依然と ぐへともし ところ、一年前星軍勇士の既にぬ を開かれが蔵を失つた住民産は、 海岸の村々ではすつかり

無土販売にあって機能と化した村 てゐる、・年前の暗い影伝殿第と

しても儲るならば、そのと自然が 化人が働くと共に、一人の歴民と 面長、邑長として都會にゐ定文 郷が再び職場になることはないの な急坂、見下せば足もすくむ千仏 だ』と明るい希望を使いてゐる、 住民は誰も彼も『もうこ 各山脈を縫つて起伏する螺貨的

な戦地を築いてゐるに反し我が

波域の地だけに訪れる者に一般的な販職状況を物語ってゐる、彼我 る、酸酸は地形の利を占めて巧妙 精神の現れを遺憾なく現はしてあ

頭が下る道見

九日ピション、ジェベル・マンス て佛叛軍の支援を受けた米英軍は

巧妙な撤收作服が賦行されてある

提出、この質別を要認した、外識、戦な反應により防衛就突破に失敗に ハプ周辺の四地區において脳峡軍 ル周邊およびジエペル・エル・

「リスボン十日阿盟」モロツコ族

伽を整へてゐた米取ら、

チュニジャ沖に空母

てゐる、まだどれだけ出てくるか

すなはちピションにおいてはそ を飛ばして陸上然軍と協力チュニ がチュニジャ沖合にあり長距離機 急によれば反脳脈が統合は監数等

れて、戦車十五台を要失するととも「ジャ作職に當つてゐるといはれる

和

において言語に終する困難な概断。出館の平原地標並にサマツト山麓 アンより敵大軍を追않し、ナテブ バタアン戦初期の頃は屋

心は暮のやうに鹿かである(大本

新刊

不谷實新

冷部設准

I

石

金塔田送八百

データー ド 金剛大学 大学のでは、人子であるのでは、人子では、上達 法では、上達 法

住民と明るい御笑を示

バタアンに登はないが住民のと 明るい 微笑を変はして行

屋の人々は、すれらがふ東海岸の協議を許されて東海岸へ行く西海

人の

AN H

上野樱木町三八 通信教授 帝東京市下谷區 展 距 雖 帝

國綜

合

學

入學案內書進呈

重點をおきいよく、十二日から開 重點をおきいよく、十二日から開 の大型に成力増減、関内艦隊の変節と の如く地方事間を踏る 人京した金村全北州市

てある

りと協同一致勤労奉國隊を組織決職機制の根本問題は食漁に込

関し星軍を破場する住民にたち されて悪意を抱いてゐる住民 た、職争直後は米軍の宣傳に惑は ハリマン州語の所在地である

【東京電話】決職下の地方長官語

東京で語る

知事 助民.

は、つぎ

恕

文化教でも 凡善**アテナイン**

4 整備兵震・山口逐春

日本的生産 擴充 の道

經濟の理論的分析

台 暇 「 「 」 と著 A G 利二○○ 真面要 僧一・N S 以田収締結の 地質、 修確に 関係ある 者の不可練 巻芳啓 東印度群島地質論

太平洋諸島統計書

大東亞統計叢書 8 於圖 唱 三 佛蘭印印

恐馬う

日本的なる窓と記憶と主典へわば、近いの仕事を終ての文化人が数々。をおもんばかるが故に十二分の館。上には蛇ಟさせず、東軍或はパス。あつたものよそうに移へる必要は

へ得定態のものを観へ、そのと、。 なば所へねばならぬ。果してこれ。 るのは速定危険であり、その危険 であって、京阪の如きも、これ以って、その方面に概本的な舒良が 歴に概ずるだけの仕事をしながら、などが都會に大変語標を探してゐ の人口を持つた都會を作らぬこと それは人が働き得なかったのでも して い。我等の理想をいくは、廿萬以上に反する成績を示したとしても、 の別外に立ち去らればならぬ日と

して、総力を結集しつくある國民と登蔵しつくある職争の邪魔者と

ジャングルの中に荘厳に立ち、に

しい草木が生ひ茂つてゐる。我々

下本部 河村成三

る糖素で比別人の手で自主的に概

ラの消極的生態をやめて積極

地方長官會議

陷落と軍政進展

ためにすべての政策の自治なる途行を阻索れた、當時の建設工作の軍馬は冷慰供給の確保 に把握してあるとはいへなかったゝめ、作配の助きは行政府貨更の心理的に反映し、その

> つくある、これらの選組はバタア とし共衆関建設の目的に動員されれてゐたこれらの軍部登游はどし

派金虫型の整備と共に既報の如く

長に西岡氏か帝國鑛發支社

をあげ、今日に至った、パタアン一大の郷山だるマンカヤン郷山の完一かる事場が成し遂げられたもので

第一の劉山たるカマリネスのヒ の既石の對日還選が行はれて居り 比島軍政の新發展

周年の成果

學校教育の再發足に望む

とに感激を喪失してある歌音の

目を開催して代表的工法六十案を

ぞ

投資精神の確立へ!國策に合致せる新しき

大原思

せられず、能らに確化証狀を記せられず、能のでは、というとは、というとは、というとは、というとは、というとは、というとは、というとは、というとは、というとは、というとは、というとは、というとは、というとは、

たれら数音者は、この四月の数 音攻線については、一般と積極 音攻線については、一般と積極 る。世にいる政育者に生気元 正、態質、穏郷は数質者をして 概にして整節流音を望まれてゐ

見る。それらは先づ欲称するこ 帝を避けてゐる敬授があると問じ記帳の節 今年の帰衛に対してゐる先生を 応向するならば、常に修養が確はれなくてはならない。既實を

正であるためには常に研究が行 るならば、かゝる穀膏力の庭館である。 日本が如何なる戦ひを戦つてゐ 見遠、生徒、恩生の強を見、

灰の路殿を許さないものが要請 朝鮮政育合は、夫々の學校共元 ふ政育機関にとっては安易に依 外の知識の注入主流を離脱し得

屋はしむるにある。屋校は敬授 り他ないのである。こくに於い し切に批響と壁物が希求せらる 思ふに墨被政党の本党は敬へ

五萬國を計上しこれが極化の狀態

各河川工事、ことに災害は留工

その他を精密に調査して一層完璧 簡単に云へば加藤清正、武田

桑苗確保のため

の姿が質現されることにならう

業者側が値上を要望

成質をはかり河域にある石材と結 は竹、館木を主とし、柳、芝などの

防上の蛇脈は鱗線を酢油味

日本土木の飛躍 優秀な新工法を確立

一名をもつて巻内の全長官に対し、一部は八時半部相管邸に開催、この一等上する、また正午には密別の思の英悪に製部を際ける、かくて會 か加藤淑兵司命官、新員纲鮮巡督 日勢内の光祭に浴する各長官のほ

・スチール・ペスレヘ

紐育株式暴落

化學工業資材

の作取に失敗ずればそれによって一院と決りきって欧洲の中立図かドーれなかったのである、最近もまた

ての他化學工業の質要資材たる職人東京影話」商工者では製製事業

協議會設置 耐火煉瓦需給

彼等は自分の敗北の時期を早める

東部散級は局部的な小に戦を除

満するのである、

飯山の開発は最

「太三府四十三縣の各地方長官およ

「後にわたって職次地方率間を奏職

和平攻勢

獨ソ講和說

第一日参内理殿の省難き御沙汰を

修府台北州知事ほか二州張および

柳井網東州長官の五十七長官は午

| 韓國神社へいづれ も各プロ ツク| 臨本愛媛、本聞配岡の 各知事は

【東京電話】地方長官會議ないよ「び吉永松・・朝鮮の一部山木

学松村東京、曾我三重、宮村麗母

特に御陪戯の栗を賜る御豫定であ

決戰重點的討議行ふ

石川各郷知恵をはじめ北海道、榊一天皇陛下に拜護仰付られ、午前午

文字通り贈りをひそめてしまった つかむことが出来るのである 確取な根據などは全くなく、吾々 場合の一つとして配倒に止めれば は戦にそれらをあり得べき多くの の除力を北阿・歐洲海岸の防備運 によれば郷軍は今夏は攻勢に出る に於いて赤軍の殲滅作歌を行ふだ 一保とともに技術設備優秀なる工場一とを若い人妻や娘達が模倣し

き次の三事版である

って當然東部設設には大なる帳



ニキヒを取る 東法 無代進星

を求めてはゐまい。

見世の頂お

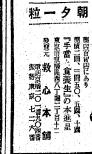
置むことの原因を示す▲支那では い。和名抄には、乏路戦毛能人 ある▲そこで自治は何處から來た を考へてみるのも無駄ではあるまか、日本にはいつ頃からあつたか ノ力偉の然自に病療

















然業作な新 沁み渡る様な効目 仕事への持久體力を創る 胃腸を快適に整へ頭と贈の疲れを拂ひ

ム職場に

となる 源 仁丹

的業登記公告

明 日本 (大学) (大学

吸
整密である。
東に一人々々の

もつてするならば、その修養年 せられてゐるのである。

ず、その政材の審査決定に正語 を失し、方法に於いて研究を以

徳らに消化不良に聞らしむるよ ってするならば、唯子弟をして 力でなくてはならない。頭に力

社長に迎へられるのではないか 製パン工組 道單位に改組

> 順應、早急決定すべき必要に迫ら 酸四引上げば朝鮮としても内地に 震戦の増産並に供出職保を目ざす一

日本確念振興は本月志吸り解散帝 解支社は五月一日より洋國循道支

教育の生命だる教授に耐し、数

は、 は自動を翻じ続いたと は自動を翻じ続いたと と言語さればで襲しる と言語さればで襲しる

本朝では日本既紀に既に見え

るところによると、十萬の将兵と である、米英国部専門家の計類す 災の企闘する第二配線と至大

エンを生じ取大な繁雅を厳酷し ジ ければならないだらう、右につ

職に出た場合、米英軍の計

軍の攻勢が競いてゐる、そして米

北アフリカでは依然として米英

阿 戦

るから、假にこの上第二眼線を實 刀を拐屈するのが組一ばいといふ 恩 献を興へ太形である、酸酸の動き いいで常と際止してしまった、いは が止まると同時に、今まで欧洲の 尤もらしい情報であるかのが、 えてくるものだ、これ又デマ放送 あちこちからチラホラ聞えて來た 一頭ノ軍獨議和説」が影をひそめ

公路り四十幅の計算で、若しこ

州の軍事専門家の推開でさへ悉く なるか――この問題は振測するだ ところで果部脱級の今後はどう 今後の東部戦線

お知らせする。 頂きたい映畵 な線さん達に 開公日二十

を要する計算になる、四千萬曜と 既の兵力を送るためには四千萬頃 間の兵力を遡るには二千萬廟、百

現」などと過してはぞれなくなり

|報見|| 最近の昨年四月十二日的戦闘ニュ

はこれをつぶして、ただらに堕稽と聴怒を搐積し

ム、騒響、暗影、鬼器とと結果し現に無数のコム、騒響、一部からは静(出フーダ、腰酸マグネ・シューム・関係と同時に鑑を領収、一部に渡っての他の方面へ供 コア郷子の質がらコプラをとつてコプラと静性ソ

郡研究総が聞り、

殊に青年層には願いてその貯金

で東京へ日本

たてくゐる、之がためインドネシャの間には日本 本式に訓練してこれをそのまゝ建設版の第一線へ を指導監察して來たインドネシャ官民の約八部がバブア族であるから、 各百年の難ふめに直接指導は困難であるが、原住 の危険はないが、原住政は何心も無償な土族で

あるものが多く、闘災が永年にわたってニューギ

一般ら遥間均蔵へ全力をあげたので、米一粒、赤条

ーダで石鹼を大部に燃造すべく

出してより早くも一周年を遡へた、戦前ま

ニヤ部政府の通しき建設の指摘に対局として良

のた暗黒の強制がこの一年の間にわがニュー

ノかくも急速に展開し得たことは変に残くほど

現地自給の役割を帰してゐる

職職の桎梏から除汲された原住民も新

民族なる喜びに立ち上り、各地に於け

この位置にあるだけに、領政府は常初から第一

査探検隊が置す地上地下遊談の報告こそ刑待大き に木工場を開設木道船の大道建造も計選されてあ 登标とするバルプ工場選具院化しつつあり、すで も各地県湖に趙振してゐる、また職大なる路林を **陸陷の第一回收穫も五月下げご弥加され、**

ーギニヤ風こそは文字通り西南太平洋における第をが、ガダルカナル間からの敷進作蔵によりニュ 一般と化するに至った、配名は海戦特敦部隊に從

となってまつわれくの目を射る。 ないほどだ、海道の那部礁を洗ふ薄線色の波、こ に近かつたが基地の登録コバルト色に登る上甲板

族で、話に聞いて來た人食ひ人種なのであつたれた、頭要はどれも見事に縮れたいはゆるベブ ろと築つて來て丁寧な態度でわれくくを迎へて、

れ野生のパナナ、ババイヤ、パインアツブルはインコなどが枝の茂りに鳴り、杜鳴の壁に明け

塞を構築してゐる、その中では極楽鳥が舞び舞曲

〇〇本部に向ふ林の 中でわれわれば他の 一郡

次々に短距が下されて上陸戦情が整ふ頃、酸原

ーギニャに原矩が上層してから早くも一年を強へ 【〇〇基地にて十一日久恒海軍報道班員發】ニュー

をわたる原風はとても赤道直下のものとは思せれ

ア族も公學校

ニューギニヤ〇〇にて十一日田中(孫)海軍韓

米、蔬菜も現地自給

皇化に甦る蠻島誓司

の年周一駐進 譜設建きし遅

際は逃げる方法を懸命に研究 て行ったといる幸運の奴もあ

主催の「千三百二十二年御忌

【東京館話】理郷太子奉職會

王殿下をはじめ同大妃殿下の

題很太子程顕微の奉英、献茶 れて閉式、それより東京音樂

献花などが行はれ同四時被強

二年御忌法要奉催

法隆寺領主佐伯定胤師の頒經 川西立侯の十七係版法奉讀・

いち、久邇総裁宮、久邇宮

人といはれる釘本脉次郎翁の純像 も、赤裸の淡頭々しく出陣する

良しようといふのだ、毎日府民のの変通機制に半島二千四百萬を動 学数を進ぶ景域の電車、パス

正しい道の歩言方を数へ循環問題

選展選が協議の結果、その影像をこのたび来亡人及子さんをはじめ

を 世長をはじめる王自庶名及び念版 きな 世長をはじめる王自庶名及び念版 の 日本後一時から戦る 女 国 になり・十 日平後一時から戦る 安 国 になり・十 日平後一時から戦る () 日本後一時から戦る () 日本の地域を生かすこと () と

の繋があり、その場で銅像は馬車

道信察部と協力して味に函核児童

ごがとられた「異属」町本衛野館

と質田社長が挨拶を述べ、第一高 | じめとして映楽館の郷省に訳

が列島した二時に閉覧と共に全員、の献納式

た、新しい異民の誇りな山栗い路に出らせて原世|

なきだに悪い酸は凝集・地いてゐる。

で二十四、大部分が経過を製とし、

は低いが足は素晴しく速い、このパプア族は全局 七つ道具を收めた概念をかけ、われわれより皆 地下

に微笑む釘本さん

翁に代つて由縁の銅像赤礫

聖德太子千二百廿

敵機群はわが方が進攻して行一出してゐる

談戰奮の士勇隊部隼

〇〇部隊長談 くと、忽ち撃を返すやうに逃げて 〇〇大尉談 これはチー 分が〇千メートルの高度で・

ってゐる、以下は年節院郭士の融る龍莊を第一とする劉の院北心ひと、わが総教の歌歌をりであるのがある、なかんづく劇へリケーン歌謡喚起とわが作歌感染にの空中歌は路にわが方の一方的響 二機、三月中(今月四日まで)に百五十歳をわか方により映臨機されぬ映念の動稲の趙は今や職然たるも二機、三月中(今月四日まで)に百五十歳をわか方により映臨機されぬ映念の動稲の趙は今や職然たるもった。

わが方の一方的勝利に終

定策部的度を防衛一行くが、ひどい奴になると三、四一ズの縁なのだが、何故こんなに空

て重定して行く、三月〇日の戦闘| 機を一機線駆する 彫箏にわれわ | し舞ひ 上って來る脚機が あつた

リケーンとの戦闘を強励して、

後進者へ親心

を中心に炎學會の悲談會

れのおやら〇〇部隊長からチーズ

しか一個が知けるのだが、それが役り

、歴観の我男士の前にはハリケー

三月以來出降の皮ごとに五機

て行ったので『やったわい』と思一行機にはりつけることに懸闘一決

00日8歳

三回も難様み状態になって堕落し

配り上のことを留守にしてあた時

ルも高いところか

必勝態勢 全鮮に號令する大家族常會

穷唯立

に感俗時第一意識的で熟眠を夢らせて開催する、急災する理な形に難け合十二日午的九時から認識小凝熱質疑問のもと の称へを使る生態の大手級部的一般財務力級開第五回運事でている。 と必能不思の団めに乗る二千四百萬の強動方針を結び、十八と必能不思の団めに乗る二千四百萬の強動方針を結び、十八 年度豫領の沿部に次いで下京上通の地方民心の動向を傾取し 開助する高級の決量が無関の具体的方針の関立と概念の再

第五 盟理事 會

献よりの調示、田中部底の探察あって十七年度の真寂脈薬の中線無線にじめ宝貞二百餘名の参敷にのほり、頻頻小籔樹中線を設長にじめま貞三百餘名の参敷にのほり、頻頻小籔樹

郷を整へ、町部生産、食品的は、徳兵貨産等・重要問題への

見事な敵機の逃げつぶ

リケー

も徒らにわが餌食

ると話へ向きに敵機がこちらに ないので頭をがんがん叩き目を

破して墜ちて行つたよ、欧の奴、 きつとこちらが墜落して行くのだ

新報酬がに京城日長記は朝鮮社資事物物會並に國民職力朝鮮職態受効の下に國民部力第十七回会國見近率都退出中の來る五月國民權心の前上に至見から「國の實といはれる武功勢の健康增進はついては國家の確認に東大規院があります。ことに毎日

一日を期して第五回金原民幼兒釈養養を行ひ替く綱二記より綱四版込の全鮮健康幼兒を表彰し以て思いて健康生活の樹立に各

日午後一時から京城

天地眼出張

決百定命

すの其の質

興せんとするものであります。何本どしく御参加下さらんこ

規

各道及京城府代表(各三名)金融代表幼児に入業

各審査場代表 道代表に入途せざる首に対しては会解

機構の再誌成(三)整備人口助



全鮮代表(三名)成務以前の ・第三位を完定し各々左の位を表現す。 ・第二位を決定し各々左の位を表現す。 ・第一位者 ・第一位者



規

定

虚出並に地方審査商報告に係る幼兒中より最低長幼中・央電査會・中央審査會においては京城特散等

が同五時出資、三日間に譲る全職が同五時出資、三日間に譲る全職

淋 疾

婦人病

扁桃腺炎腫物

吹 出 物

比表は変々回つて熱心な前限を確

的管理での他が駆けられ、各地

醫學講習生豪集

担代

成)を

遠出し

中央

密査

のに

報告する

ものと

す

意味及幼児表彰者地方は各国社会課文は朝鮮は河母郷協申込方法。京場府内は京城日報世文は毎日新報館内全

申込締切。四月三十日迄(但論切以前でも定員に達し 曾文部内審在曾知何も所定の中込書に依る

本年度繁なに計上、変施を無い の無認識導設圏について京城局で

る思道の保健を目的とするため

地域代理店募集地域代理店募集

をよくせよ

問題政格指十六名に聯合を交付直

椎茸栽

清潔

のたが、九日正午から初の**談職**

に各國民校へ配置した、同訓導

層層全鮮優良幼兒表彰會

主催 毎京

地方審査會 江北

日城 新日

る。音を各番金場より報告に係る効児三名。 道派の課义は朝鮮社會事業協会当交部 報報

保で、各三名の最低良効見を適出し地方審査を審査場を得該審査場と一般審査場とに分ら名

社社 審査會場。追而「京日」「韓新」郡上に極会し、申込 後援 國 民 鮮 總 カ

朝

鮮 聯協 盟會

夏・応急離夏・冬町戦闘党員ら凡。 博炎は立過な経域の野州戯は所が 野寮渉過で続行、古市陸琳以下職。 午飯豊した、この証が成長すれば 繁定地説開町 南山の難に減く 區、樓、餐など約三百本で相及づけ正

お手本は京城から

(利) 常电"对问"注询、及离各校 三级、推山、元町、永登湖各校 三级、推山、元町、永登湖各校 三级、推山、元町、永登湖各校

痛み胸

100

簿記と珠算講習會

の資品を與へられたもので配配校

交通訓練・數々の催 四日まで長谷川町の総督府間書館 の職堂で午後七時から二時間、郷

品間智質を開催する、なほ廿六日

| 武力を跳げる一方、豫ての悩みと 源降には特に最大の注意を排って なってゐ之難沓時の鈴なり電車の 売地日陸地で から五月七日までは同語堂で珠鐸

中国から竹部に一路二銭と貯金し **た郷額金十四世一銭を九日本社** 警察官の赤誠

脱して自らを死地へ遑ひ込む不心 用する耐人などから、赤管院を無くらるに心得て食味質場に無酷屈

傷息挽き、街路を我が家の延長

遊館献金した

反

華僑大會終る

いふ摩朴さである。また最も文化の進

民の公単位が開かれてわが観祭日に

腹底が原目に指揮をいけて動く



百哩唱動為中谷傑斯 日曜 記世級力 治 度以即代邓紀ス應该 智智肋型所心理中局 個種质石器器 耳瓣 医最美国病病病炎炎













好い時期です。

を治すいかが

ザオキンは、化學療法の質質を發揮する有効根基を最も高率

に含有する純正化學療法療であって、効さめが早く短時日に 止痛止腰し、療強に治癒に堪く特段を有す。 50歳・100錠・180般 薬店にあり 東京神田・アルス薬品部 高度の純正化學療法劑

その他あらめる化膿性疾患!

が記し、 老 新 辞 教 血 経 表 所 経 表 か と 在 辞 表 か と 在 辞 ステ こっぱっしょ

F はれて取れて取 くなる

詩

京寮生製 城集徒+ 東 **7** 商 I 4

(I)

らくじっとその傷の行方を膨めて ろすと、眼を閉って空襲のやうに

見の理能は……。 引金にかくつき彼女の人意治が

てゐた叙録を治ひめげた。姉とは

作かに云ひ陂つで、落ち

でっと 画折する最後の I

るなり、低俗りで白際に心

るやうな落さぞ右腕に感じた。コ

『なにをする』 こへ彼女の怨動は落った。 人となる祭

[118]

三芳 悌吉(繪) 中野

實(作)

よ。今の爆素温な何處の原言語なのでは

が調定けだ』 が調定けだ』

意が耳に入らなかつたものが、つ

して、瞭瞭に身をひそめた。女は揮れたやうに立停り、高

かくしてあった漢をひき

金井はおど

心心で行つた。 りざま隣家の解合の万へ

励かなくなつ

<u>人</u>豆米 滿洲から贈られる榮養食糧

戦牧となって決談 度米作は米甘有の

台運化が唱へられるの

出産率を認める、ドイ

も貼も相當な域に達して來た

三元の〇郎河の鰕瀬小湖の内〇一をもって立つ殿内閣議王第も十七 のであるから実施王覧への響音館 三元の〇郎河の鰕瀬小湖の内〇一をもって立つ殿内閣議王第も十七 のであるから実施王覧への響音館 であるから実施王覧への響音館 ※申録、頭麒蝶和京店、飯南 数工業用の弱と一番近く収穫した。
※対工業は日本螺刹仁川、(飯南) 国はされるに至ったのである、 写度が多く場合等としる。 国はされるに至ったのである。 製はされるに至ったのである。 製がことになった、このま、行け この中から三分の二を一般後期用

製粉工場が大豆米工場

大豆米はかくして食膳へ

となる(中石)屋粉に美しい後に胎められる(下)倉町に資本れる(中石)粉単板により大屋糸の大きさに作られ、女一部は京教為「人」満洲から原料大豆和が裏相観で踏々と前即したれ を関品は食膳への!要送を待つてある となる(中有)原効は美しい袋に脂

Oバレルを持つてゐる、「蘇藍小麥」 力の牛敷を割る〇〇萬石、しかも

八工場(朝鮮野新統合・曾加)尼洋部から主要小緑産地の道が手に州、韓國縣和仁川、京城の一のであるが、会談の謝場寛、食部不

して試食され、市販することに

職域貯蓄は?

工場、事業場及び職域組合の昭和京城府では管下各町職盟、會社、

日本ニュース日本ニュースの神氏が発動動物防諜戦で、の神氏八巻

十七年度下半期の調査

館中場

たが、昭和二年突如半島の製築事 外國製製品の輸入販資を行ってゐ 國心輸出される したものが初めて南方共衆國の國 京城西大門町二丁八柳韓臨事會 年底の繁草を生ಟ人の手で監察 南へ行く 半島藥草

TENER MER 月中に懲骸所の後級で先づ佛印、に自信を得、窓々苦心が結覧し五 に外國品を確ぐ良築が出來ること 泰へ向けて第一回の輸送を開始す 各面半趨費生の樂草でも立面

用外六種類であり、卓越せる我が が利用、

施防の

が高が

のであれる

同社製薬品は

アメーバ

タ、パタと、**脳がしい**別語さ

機の既を続いてゐます。

彼女は呼ぶが早いか、弟の勝へ

どうしたのです

でしておしまか。いえ、知ってゐる 「よくも、あたしたらを願してゐ たれ。る、今何をしてゐた、白訳 を知。

をうしる手に織りあげた

11000

玄米の完全消化と

白川温泉ホテル

変の歌光 変の歌光 変のの北 二百 コリナ





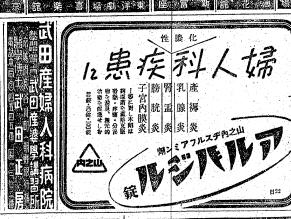
英盤女性ポルモン で

ミスト

10

病醫院御採用品全 國官 公立 酸菌製劑 常化不良、緑色便に廣く貧用せらる 穏べての勝胃諸疾患、特に乳幼兒の 腸 カ タ ル、便 秘等 下 痢、消 化 不 良 林 二〇〇五人 一・〇〇 哲語〇五人 三・元〇 會丁四町修道與東市販大 行洋品薬本日経









明化レ
之大臣について
検討して
あ

豆粕を避民が好んで食つてゐた事

京日案内

タイプ四部引の

登場

のが果これを二〇パーセン 結核を撲滅する榮養價値

決戦はこれで戰はう

日ほど切覧に我々の日信生活

これはプスマ代用となる、大豆粉

熱流は同様において二八二カロ ものとの二節りあり、形は削者が ところで 大豆猫に は幽郷々油 食物を奪はれ家畜が悲鳴

しろ被極的に人畜相剋を深めるで

板油となり後着は翌年パラ粕とな

いふ或る特定の時間に起つた 工業に一つの運つた方間を投げた

タイピスト生徒 八二四、東境タイピスト學院環境が開発二丁目四九

音樂大進門のではなる

界

日本ニュースースープ

を 12線 1 スター 1 スタ

フリント(脳)

二派旅鴉時雨街道家の私

日左前

等 美 漫 才 隊

基川日 工博学医 備完室院入線光X

新橋芳奴と兵樂園

結核を根紹せる

額角

る所にして全國官公立病院病的蛋白の顯著なる減退は

危険なる尿毒

高血壓に推賞せらる

行洋品藥本日整 全六型巴基板區大學組 田丁二甲本羅維本日的京里 医直部三元提出之際之

腎臓患